



院長先生あいさつ

中央病院長 飯尾賢治



今年度も院長を務めさせていただきます飯尾賢治です。年度初めのごあいさつを申し上げます。

兼ねてよりの念願でありました病院の改築は、昨年度に第一期工事の重心棟とリハビリ棟から着工となり、本稿執筆時点では建物の外壁部分ができつつあります。本年度下半期に完成する予定となっており、現在こぼと学園に入所されている方のうち新たな地域の施設等に移られる方以外の方が、年度末に重心棟に入られることとなります。通院患者さんのリハビリ訓練については、リハビリ棟完成後に準備が整いしだい行う計画になっています。したがって、リハビリを受けられる方々は、病院棟完成より一足先に新しくてきれいな環境を享受していただくことができます。しかし、病院棟はこぼと学園を解体した跡地に建設されますので、完成までにはまだ3年ほどの期間を要します。中央病院はすでに老朽化がはなはだしく、今しばらく患者さんならびにご家族にご不便をおかけしていますが、職員一同の努力と熱意でこれを補う所存ですので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

医師の人事に関しましては、小児内科（遺伝診療科）に稲葉美枝先生が赴任されました。同科はしばらくの間1名体制でしたので、今年からは患者さんのニーズによりお応えできるようになるものと期待されます。児童精神科部長として長年勤められました吉村育子先生が昨年度で退職されましたが、引き続き非常勤として毎週一日診療にあたってくださいます。小児神経科では大萱俊介先生が異動となり、代わりに牧祐輝先生が名大より着任され、病院で最も若手の医師として十分な活躍をしてくれることと思います。上記以外の、小児外科、整形外科、脳神経外科、成人内科および歯科等では異動なく、障害を持たれた患者さん中心の医療を継続して提供してまいります。

他の病院と比べて特筆すべき当院の特徴の一つは、ご家族の付添なしで患者さんのみでの入院診療が可能ということです。患者さんの入院に伴ってご家族が付き添われると、残されたご家族の日常生活に支障を生じてしまうものと推測されますが、当院ではそのような心配は無用となります。また、障害をお持ちの多くの方が、ご家族のレスパイト（休息）を目的に当院をご利用いただいております。ご家庭でのケアがたいへんな方の在宅医療を円滑に進めるのに当院は貢献できているものと自負しております。もしこういったことでお困りの方がいらっしゃいましたら、どうぞお気軽にご相談してくださいませようお待ちしております。



<第一期工事風景>

■中央病院の理念と基本方針

私たちは成長や発達に支援を必要とする方々に、より良い医療を提供するように努めます。

- 1 胎児期から成人までを対象とし、患者さんの目線に立ったやさしく安心できる医療を行います。
- 2 心とからだの成長・発達に影響する子どもの疾患を総合的に診断し良質な医療を専門的に提供します。
- 3 患者さんが自立した生活ができるよう、在宅支援や地域との医療連携を推進します。
- 4 成長・発達に影響する病気の原因追究および治療法の開発を発達障害研究所やこぼと学園と協力して進めます。

トピック

「第3回重症心身障がい児者呼吸器ケア研修会」



2015年2月21日に「重症心身障害児者呼吸器ケア研修会」を開催しました。本研修会は2012年から愛知県内の小児医療機関向けに、障がい児の呼吸障がいに対する診療のノウハウを学んでいただく機会として行ってきました。3年目となる今回は「新生児期～乳児期に重度障がいを持ち、慢性的に呼吸に問題を抱えるこどもへの医療」をテーマに、呼吸ケアサポートチーム(RST)委員会メンバーが中心となって企画運営を行いました。愛知県内のNICUを併設する医療機関のスタッフ(医師、看護師、訓練士)を対象に応募を募ったところ、定員を越える多数の参加申し込みをいただきました。実習受け入れに限度があったため、調整により47名の方にご参加い

ただきました。新たに小児外科医師の講義を加え、内科医師・外科医師・看護師・理学療法士の各分野の立場から講義を行い、その後、医療機器体験コース(在宅人工呼吸器紹介、パーカッションベンチレーター・バギング吸入体験、スマートベスト体験、NPPV体験、排痰補助装置体験、気管カニューレ・胃ろうデバイスの紹介)と呼吸理学療法コースの2班にわけて実習を行いました。参加者は熱心に講義に耳を傾け、実習も興味深く受けていただきました。また、意見交換の中で当院スタッフもたくさんの刺激をいただきました。今後も、多くの医療機関に排痰・気管切開・人工呼吸器などの医療を必要とするこどもたちへの当院の取り組みを知っていただき、障がい児者医療が安定的に行えるよう貢献していきたいと思っております。

(呼吸ケア委員長 山田桂太郎)



◆ 新任医師紹介 ◆

小児内科

稲葉美枝 先生



今年の4月から小児内科に赴任してきました稲葉美枝です。小児科医になって今年で17年目になりました。3月までは名古屋記念病院小児科で勤務していました。コロニー中央病院では、遺伝疾患の患者様の診断と、健やかな育ちのお手伝いのできたらと考えています。趣味は、家族でお料理をしてみんなで楽しく食することと、水泳、テニスなどです。よろしくお願ひ致します。

小児神経科

牧 祐輝 先生



出身地：長野県塩尻市
前任地：名古屋大学医学部附属病院
趣味・特技：スポーツ、特に陸上競技が好きですが最近は観戦メインです。
コロニーの印象：自然に囲まれた環境で気持ち良く仕事ができます。スタッフの方々の笑顔も素敵だと思います。
今後の抱負：一日も早く仕事に慣れて、皆さまのお役に立てるよう、日々努力して参ります。どうぞ宜しくお願い致します。

What is

認定看護師 ① 家族支援専門看護師 山口智治



こんにちは。私は昨年 11 月に日本看護協会より家族支援専門看護師として認定されました。これから私の活動について少しご紹介します。

家族の 1 人が病気や障がいを抱えることで、その方だけでなく、家族全体にも大きな影響が生じます。しかしながら、家族にはこれまで培ってきた“力”があるとも言われています。例えば、子どもの入院にお母さんが付き添いをされた時、それまでお母さんが行っていた家事などの役割を他のお父さんやきょうだいが変わって行っていないか?? 家族内で「困ったこと」が起こった時、それを家族の「問題」と捉えて、その問題の解決に向けて解決の方法を家族みんなで考えていませんか?? もしかしたら、それを当たり前のことと感じる方もいらっしゃるかもしれません。でも、その 1 つ 1 つが家族の“力”なのです。

ただ、そんな家族の“力”は弱まってしまうこともあります。「お母さんが無理をしてそうだけど、どうしたら良いんだろう?」と悩むお父さん、「家族の中で子どもの治療方針について意見がバラバラになっている…」と悩むお母さん、「お母さんとお父さんが△△ちゃんのことばかりで、僕の事気にしてくれない…」と悩むきょうだい…そんな経験はありませんか??

私はそんな家族の“力”を支え、また、家族の「困ったこと」の解決に向けて、様々な調整や関わりをさせて頂きながら、ご家族と共に目標に向かって頑張りたいと考えています。しかしながら、まだまだ経験も不足しておりますので、ご家族の方々から勉強させて頂きながら、看護師として、家族支援専門看護師として成長させて頂きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。またお気軽にお声かけ下さい。



ワビワビ紹介 5 心理部門

<保護者と心理職員が一緒になって考える機会を提供>

心理部門では、児童精神科の医師と連携をしながら心理検査、心理療法、自閉症スペクトラムに関する学習会等の業務をしています。心理検査とは、知能検査や発達検査、性格検査等の種類があり、お子さんが今どのくらいの知能や発達段階なのか、どんな特徴があってどんなことが得意不得意なのか等検査を通して見させていただいています。今後お子さんにどのような働きかけをしていけばいいのか、周りに



<心理検査風景>

どのような配慮をしてもらったらいいのかということを考える一助にしてもらえたらと思っています。現在力を入れて取り組んでいるのが、自閉症スペクトラムに関する学習会です。当院の初診で診断を受けたお子さんの保護者の方を対象に、知識的なことをお伝えする「ミニ講座」や小グループでお子さんのほめ方、関わり方を学んでいく「上手なほめ方講座」「すてっぷ」(ペアレントトレーニング)といった講座を開催しています。お母さんだけでなく、お父さんや祖父母、親戚の方の参加もあり、保護者の方々と心理の職員が一緒になってお子さんへの対応を考えていく機会となっています。「心理って何?どこにあるの?」と思われる方もいらっしゃると思いますが、機能訓練センター2階にいます。ご相談等がありましたら是非お気軽に声をおかけください。学習会への参加も随時募集しております。

子育て学習会
すてっぷ

「すてっぷ」は、お子さんへの上手な関わり方をじっくり学べる体験型の学習会です。
「つづいてはばかり」「上手な関わり方がわからない」と悩んでいませんか?お子さんの個性を理解して、具体的な方法やちょっとしたコツがつかめると、楽に、楽しく子育てがすすんでいきます。同じような悩みをもつ保護者の方たちと一緒に勉強してみませんか?

＜平成27年度 すてっぷのスケジュール＞	
第1回	7月 22日(月)
第2回	8月 3日(月)
第3回	8月 24日(月)
第4回	9月 7日(月)
第5回	9月 28日(月)
第6回	10月 19日(月)
第7回	11月 9日(月)
第8回	11月 30日(月)
第9回	12月 14日(月)

※時間は毎回10時～12時です。

「すてっぷ」の目的は、お子さんへの上手な関わり方をじっくり学べる体験型の学習会です。
「つづいてはばかり」「上手な関わり方がわからない」と悩んでいませんか?お子さんの個性を理解して、具体的な方法やちょっとしたコツがつかめると、楽に、楽しく子育てがすすんでいきます。同じような悩みをもつ保護者の方たちと一緒に勉強してみませんか?

「すてっぷ」の目的は、お子さんへの上手な関わり方をじっくり学べる体験型の学習会です。
「つづいてはばかり」「上手な関わり方がわからない」と悩んでいませんか?お子さんの個性を理解して、具体的な方法やちょっとしたコツがつかめると、楽に、楽しく子育てがすすんでいきます。同じような悩みをもつ保護者の方たちと一緒に勉強してみませんか?

スタッフ紹介



視覚障害訓練指導員 信末裕子

視覚障害訓練室はどんなことをしているのかを少し紹介します。視覚障害といっても、全く見えない人、矯正しても視力が出ない人、視野が狭い人など見え方は個々で違います。当訓練室には眼に疾患のある方と中枢性視覚障害の方が来室されます。患者さんの多くは中枢性視覚障害の患者さんでてんかんや脳性まひ、知的障害など複数の障害があります。中には医療的ケアが必要な方もいます。中枢性視覚障害とは眼そのものではなく眼に映ったものを処理する間や脳でうまく処理できていない状態です。物を見つけるのに時間がかかる・追視が苦手・おもちゃに手を伸ばせないことなどがあげられます。

視覚障害の方と中枢性視覚障害の方への対応は違いますが、どちらもどのように目を使っているのかを評価し、見るためによりよい環境を整えます。必要に応じて点字や白杖の導入を行う場合もあります。見せる物（色やコントラスト）と見せ方、姿勢や呼吸の状態なども大事ですので、様子を見ながら、どういうものが好きかを保護者の方と一緒に話をして進めています。

視覚障害訓練を行っているところは東海地方では当院だけで、愛知、岐阜、三重の広い地域から来室されています。楽しみに来室してくださる患者さんの笑顔に癒されますし、それが励みになっています。見るのが上手になると反応も変わってきます。お子さんの状況をしっかりと理解し楽しい経験を通して見るが増えるような関わりをこれから心掛けていきたいです。

～問診票～

- 出身地はどこですか？
栃木県です。
- コロニー在籍何年ですか？
11年目になりました
- 趣味は？
読書、映画鑑賞
- 血液型は？
O型です。
- 猫と犬どっちが好きですか？
どちらも好きですが、犬のほうが好きです。
- マイブームは？
マッサージ
- 最近、気になるニュースは？
特にありません。
- コロニーで好きな所は？
自然豊かで四季折々の景色が楽しめるところです。



<演奏風景>

3月18日(水)、管理棟講堂において、名古屋大学吹奏楽団の学生さんたちが、演奏を披露してくれました。当日は、「アンパンマンのマーチ」や「アナと雪の女王」のテーマ曲などの演奏がありました。

また、アニメ「妖怪ウォッチ」のテーマ、「ようかい体操第一」を曲に合わせて、団員の方々が踊る場面もあり、患者さんたちは、コンサートを大いに楽しんでいました。



春のあじおとコンサート開催